

都市再生整備計画 事後評価シート

厚田地区

令和2年3月

北海道石狩市

様式2－1 評価結果のまとめ

都道府県名	北海道		市町村名		石狩市		地区名		厚田地区			面積		200ha		
交付期間	平成28年度～平成31年度		事後評価実施時期		平成31年度		交付対象事業費		1191		国費率	0.4				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	事業名														
		基幹事業	地域生活基盤施設 広場(自然交流広場)、地域生活基盤施設 情報版(案内板・案内サイン)、高次都市施設((仮称)道の駅あったか・あいろーど)													
		提案事業	地域創造支援事業(林道八幡沢線改良事業、郷土資料展示室整備事業)、事業活用調査(事業効果分析調査事業)、まちづくり活動推進事業(ガイド育成研修事業、観光交流センターイベント開催事業)													
	当初計画から削除した事業	事業名				削除/追加の理由				削除/追加による目標、指標、数値目標への影響						
		基幹事業	自然交流広場				事業内容等を精査し、自然交流広場整備を削除、関連事業としてソフト事業を重点的に実施実施。				自然交流広場整備と同様の効果を関連事業で実施するソフト事業により見込むため数値目標は据え置く。					
	提案事業	ガイド育成研修事業				関連事業として実施。				影響なし						
	新たに追加した事業	基幹事業														
		提案事業														
	交付期間の変更	当初	平成28年度～31年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響											
変更																
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指 標		単位	従前値	目標値	数 値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期					
			基準年度	目標年度	モニタリング	評価値										
	指標1	地域の満足度	%	65	H26	72	H31		82	○	ありなし	道の駅の新規整備、キャンプ場の案内機能強化などにより、地域の満足度が向上				
	指標2	厚田地区の入込客数	人/年	145,000	H26	290,000	H31		542,000	○	ありなし	道の駅整備、周遊動線強化、自然交流プログラムのPR・浸透などにより入込数増加	令和2年4月			
	指標3	自然交流エリアの入込客数	人/年	3,442	H26	4,200	H31		8,453	○	ありなし	自然交流エリアの魅力向上と道の駅との相乗効果により入込数増加				
	指標4									ありなし						
指標5									ありなし							
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指 標		単位	従前値	目標値	数 値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期					
			基準年度	目標年度	モニタリング	評価値										
	その他の数値指標1															
	その他の数値指標2															
その他の数値指標3																
4)定性的な効果発現状況	地域住民・団体による主体的な地域活性化への取り組みの活発化(道の駅における厚田PR活動や新規特産品開発・テスト販売など)															
5)実施過程の評価	実施内容					実施状況					今後の対応方針等					
	モニタリング					都市再生整備計画に記載し、実施できた										
						都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した										
						都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった										
	住民参加プロセス		厚田区地域協議会への報告「道の駅」地域説明会の開催			都市再生整備計画に記載し、実施できた										
都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した						●										
都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった																
持続的なまちづくり体制の構築		厚田区地域協議会との連携によるまちづくりへの取り組み 厚田こだわり隊による厚田PR・地域活性化への取り組み			都市再生整備計画に記載し、実施できた											
					都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した					●						
					都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった											

様式2-2 地区の概要

厚田地区（北海道石狩市）都市再生整備計画事業の成果概要									
まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
【大目標】 厚田の魅力を高める交流拠点の形成による地域の活性化 【目標1】 地域の歴史、文化、自然、観光などの情報を発信し、地域の魅力を高める集客・交流拠点づくり 【目標2】 回遊性を高め、地域全体の経済活性化を図るまちづくり 【目標3】 地域の豊かな自然環境とふれあい、体験して楽しむまちづくり	地域の満足度	単位：％	65	H26	72	H31	82	H31	
	厚田地区の入込客数	単位：人／年	145,000	H26	290,000	H31	542,000	H31	
	自然交流エリアの入込客数	単位：人／年	3,442	H26	4,200	H31	8,453	H31	
		単位：		H		H		H	
		単位：		H		H		H	

■ 基幹事業 高次都市施設
観光交流センター／石狩市

■ 提案事業 地域創造支援事業
郷土資料展示室整備事業／石狩市

■ 提案事業 まちづくり活動推進事業
観光交流センターイベント開催事業／石狩市

■ 関連事業
ガイド育成研修事業／石狩市

■ 提案事業 地域創造支援事業
林道八幡沢線改良事業／石狩市

■ 関連事業
サイクリング体験／石狩市

■ 関連事業
フットバスツアー／石狩市

■ 関連事業
ウォーキングイベント／石狩市

■ 基幹事業 地域生活基盤施設
情報板／石狩市

■ 関連事業
トレイルランニング体験／石狩市

■ 提案事業 事業活用調査
事業効果分析調査事業／石狩市

まちの課題の変化	・道の駅整備により、厚田地区の新たな集客、交流、地域活動の拠点が形成された。 ・案内サイン・案内板の整備、林道整備により、地域内周遊動線強化が図られた。また、トレイルランニング体験、フットバスツアーなどの関連事業の実施により、自然交流エリアの自然体験拠点としての認知度が向上した。 ・道の駅、自然交流広場、案内板・案内サインの整備を通じて、集客・交流拠点形成と回遊性向上が図られ、来訪者は地域内でゆったりと充実した滞在ができる仕組みが構築された。
今後のまちづくりの方策（改善策を含む）	・道の駅利用者の厚田地区以北への回遊が少ないことから、これらの向上を図る取組を推進する。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1－① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標	●		滞在型自然交流広場の入込客数	自然交流エリアの入込客数	当初計画では、地域の自然環境を体験する場を拡充(=滞在型自然交流広場の整備)予定であったが、新規施設整備を行わず、自然体験プログラムなどソフト事業の重点的実施により厚田ファンやリピーター創出を図ることとした。
C. 目標値		●			
D. その他()		●			

添付様式1－② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域生活基盤 施設 広場	自然交流広場	871	5,560㎡	—	なし	平成30年12月に計画削除 事業内容等を精査し、自然交 流広場整備を削除、関連事 業としてソフト事業を追加	自然交流広場整備と同様の効果を、関連事業で実施する自 然体験プログラムなどソフト事業により見込むため、数値目 標は据え置く。		
地域生活基盤 施設 情報板	案内板・案内サイン	271	12基	271	12基	なし	—	●	
高次都市施設	(仮称)道の駅あったか・あいろーど	8151	791㎡	9291	1,156㎡	設計の一部に事業者・住民意 見を反映したことによる事業 費・施設面積増	影響なし	●	

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	林道八幡沢線改良事業	35	960m	28	960m	コスト縮減による事業費減。	影響なし	●	
	郷土資料展示室整備事業	310	280㎡	201	177㎡	展示内容見直しによる事業費・施設面積減。	影響なし	●	
事業活用調査	事業効果分析調査事業	3		3		なし	-		●
まちづくり 活動推進事業	ガイド育成研修事業	3	ガイドボランティア育成研修	-	なし	平成30年12月に計画変更して削除 関連事業として実施。	影響なし		
	観光交流センターイベント開催事業	3	オープンイベント開催	3	オープンイベント開催	なし	-	●	

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業

事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画		
ガイド育成研修事業		-	-	2	-	平成29年度～平成30年度	平成30年度実施。 道の駅オープンに先駆け、ガイド研修を実施。	
トレイルランニング体験		キャンプ場、旧スキー場、濃昼山道	-	0	-	平成29年度	平成29年度実施。 自然体験メニューとしてトレイルランニングの認知向上。	
サイクリング体験		旧パークゴルフ場、林道八幡沢線	-	0	-	平成30年度	平成30年度実施。 自然体験メニューとしてサイクリング、ファットサイクリング認知向上。	事業箇所を旧厚田スキー場に変更。
フットパスツアー		林道八幡沢線及び自然散策路	-	0	-	平成30年度	平成30年度実施。 自然体験メニューとして、フットパスツアーの認知向上。	
ウォーキングイベント		林道八幡沢線及び自然散策路	-	0	-	平成28年度	平成30年度実施。 ウォーキングコースとしての認知向上。	平成30年度実施に変更。

添付様式2ー① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指 標			データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目 標 達 成 度※2		1年以内の 達成見込みの 有無	
					基準 年度		基準 年度		目標 年度							
指標1	地域の満足度	%	石狩市が毎年実施する「指定 管理者施設満足度調査」より、 厚田地区主要施設の満足度を 評価値とする。			65	H26	72	H31 (R1)	モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定見込み	82	事後評価	○		
指標2	厚田地区の入込客数	人/年	石狩市が毎年実施する「観光 客入込調査」より、厚田地区主 要施設を訪れる年間入込客数 を評価値とする。			145,000	H26	290,000	H31 (R1)	モニタリング			モニタリング		●	
										事後評価	確定見込み	542,000	事後評価	○		
指標3	自然交流エリアの入込 客数	人/年	石狩市が毎年実施する「厚田 公園キャンプ場入込調査」よ り、キャンプ場入込数(日帰者 +宿泊者)を評価値とする。			3,442	H26	4,200	H31 (R1)	モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定見込み	8,453	事後評価	○		
指 標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)								その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)							
指標1	道の駅の新規整備、キャンプ場の案内機能強化や自然体験プログラムの充実などにより、主要施設及び地域の満足度が期待以上の効果が発現。								-							
指標2	新規整備した道の駅が観光目的地となるなど期待以上の入込、自然交流エリアも周遊動線強化、自然交流プログラムのPR・浸透などにより入込増が図られるなど、厚田地区として期待以上の効果を発現。 平成31年度(令和元年度)上期で目標達成(434,000人)。								-							
指標3	道の駅開業、周遊動線の強化(林道整備、案内板・案内サイン整備)、自然体験プログラム実施等の相乗効果により、期待以上の効果発現。								-							

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○ : 評価値が目標値を上回った場合

△ : 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

× : 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2ー② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標		単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)	基準 年度	従前値 (イ)	基準 年度	数値(ウ)	本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
その他の 数値指標1								モニタリング		
								事後評価	確定 見込み	
その他の 数値指標2								モニタリング		
								事後評価	確定 見込み	
その他の 数値指標3								モニタリング		
								事後評価	確定 見込み	

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2ー参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

・地域住民・団体による主体的な地域活性化への取り組みの活発化(道の駅における厚田PR活動や新規特産品開発・テスト販売など)

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	-	-

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
厚田区地域協議会への報告	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	● 【実施頻度】月1回 【実施時期】平成28年度～平成31年度 【実施結果】市の審議会である厚田区地域協議会において、道の駅や郷土資料展示室など事業計画や進捗に対する説明を細やかに行うとともに意見交換を行った。この結果、施設整備・開業後、当該施設を核とした地域振興策の検討を行うなど、持続的なまちづくり活動の促進に結び付いている。	今後も厚田区地域協議会や関係機関と連携を図り、協働によるまちづくりを推進していく。
「道の駅」地域説明会の開催	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	● 【実施頻度】11回 【実施時期】平成28年5月11日 【実施結果】厚田区地域協議会主催による「道の駅」地域説明会の開催し、41人の住民が参加した。施設整備内容や施設を活用した地域振興策(着地型観光や体験観光、直売所など)について意見交換を行った。この結果、住民の理解と関心が高まり、道の駅を活用した主体的な住民活動を誘引となった。	今後も厚田区地域協議会など関係機関と連携を図り、地域振興について、住民と直接的な意見交換の場を設けるよう努める。

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
厚田区地域協議会との連携によるまちづくりへの取り組み	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	● 厚田区地域協議会との市の施策の報告や意見照会	厚田区地域協議会	厚田区地域協議会との連携を促進し、厚田区のまちづくりを推進する。
厚田こだわり隊による厚田PR・地域活性化への取り組み	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	● 道の駅など、厚田こだわり隊による厚田PRの場やテスト販売等の場の提供	厚田こだわり隊	厚田PRの場や地域活性化への取り組みの場の提供するなど地域づくり活動を積極的に支援する。

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4－① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内横断的な組織 (都市再生整備事業効果検討チーム)	商工労働観光課、都市整備課、建築住宅課、企画課	令和元年10月31日	商工労働観光課

添付様式4－② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1		指標2		指標3			
指 標 名		地域の満足度		厚田地区の入込数		自然交流エリアの入込数			
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	地域生活基盤施設(案内板・案内サイン) 高次都市施設(仮称)道の駅あったか・あいロード)	◎ ◎	道の駅の新規整備、キャンプ場の案内機能強化や自然体験プログラムの充実などにより、個別施設の満足度の向上し、地域の満足度が向上した。	○ ◎	道の駅の新規整備、自然交流エリアとの周遊動線強化、自然体験プログラムのPR・浸透などにより厚田地区の入込が増加した。	◎ ○	自然交流エリアとの周遊動線強化、自然体験プログラムの積極的PRにより、エリアの魅力向上が図られるとともに、道の駅との相乗効果により入込数が大きく増加した。	---	
提案事業	林道八幡沢線改良事業	◎		○		◎		---	
	郷土資料展示室整備事業	◎		◎		○		---	
	事業効果分析調査事業	-		-		-		---	
	観光交流センターイベント開催事業	○		◎		-		---	
提案事業	ガイド育成研修事業	○		○		◎		---	
	トレイルランニング体験	○		○		◎		---	
	サイクリング体験	○		○		◎		---	
	フットバスツアー	○		○		◎		---	
	ウォーキングイベント	○		○		◎		---	

※指標改善への貢献度
◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
○：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
△：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
－：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	地域の満足度を継続的にモニタリングし、必要な改善を図ることとする。	道の駅と周辺施設の連携を強化し、一層の入込向上を図る。	自然体験プログラムの充実やPRにより、エリアの利用促進を図る。	
-------	-----------------------------------	-----------------------------	---------------------------------	--

添付様式4－③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1			指標2			指標3					
指 標 名													
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	地域生活基盤施設（案内板・案内サイン） 高次都市施設（（仮称）道の駅あったか・あいろーど）												
提案事業	林道八幡沢線改良事業												
	郷土資料展示室整備事業												
	事業効果分析調査事業												
	観光交流センターイベント開催事業												
関連事業	ガイド育成研修事業												
	トレイルランニング体験												
	サイクリング体験												
	フットパスツアー												
	ウォーキングイベント												

※目標未達成への影響度
××：事業が効果を発揮せず、
指標の目標未達成の直接的な原因となった。
×：事業が効果を発揮せず、
指標の目標未達成の間接的な原因となった。
△：数値目標が達成できなかった中でも、
ある程度の効果をあげたと思われる。
－：事業と指標の間には、もともと関係がないことが
明確なので、評価できない。

※要因の分類
分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 （記入は必須）				
------------------	--	--	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5ー① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内横断的な組織 (都市再生整備事業効果検討チーム)	商工労働観光課、都市整備課、建築住宅課、 企画課	令和元年10月31日	商工労働観光課

添付様式5ー② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
地域の魅力発信と地域の活 性化を図るための新たな集 客・交流拠点の形成	道の駅が、厚田地区の新たな集客、交流、地域活動の 拠点となっている。	-	道の駅利用者の厚田地区以北への回遊が少ないことから、 これらの向上を図ることが必要である。
地域の魅力向上のための既 存施設有効活用・再整備、自 然体験型の新たな観光メ ニューの創出	案内サイン・案内板の整備、林道整備により、地域内周 遊動線強化が図られた。また、トレイルランニング体験、 フットパスツアーなどの関連事業の実施により、自然交 流エリアの自然体験拠点としての認知度が向上し、利 用数も増加した。	-	
地域コミュニティの活力再生 のための集客・交流拠点の形 成と回遊性を高めるなど、来 訪者が地域内でゆったり滞在 できる仕組の構築	道の駅、自然交流広場、案内板・案内サインの整備を 通じて、集客・交流拠点形成と回遊性向上が図られ、来 訪者は地域内でゆったりと充実したと滞在できる仕組み が構築された。	-	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5ー③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	道の駅の集客・交流・地域活動拠点としての活用	基盤整備は終了。効果的な活用に向けて行政と住民との継続的なコミュニケーションを図ることが必要。	・道の駅における地域イベント実施。 ・厚田地域協議会など行政と住民の継続的コミュニケーション
	自然交流エリアの魅力向上とPR	自然交流エリアにおけるプログラムの充実を図るとともに、認知度の向上を図ることが必要。	・道の駅と連携した情報発信 ・観光、教育、健康・福祉など各分野における自然体験等を活用した事業の実施。

B欄 改 善 策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	浜益地区への観光客の回遊性の向上	道の駅利用者などに対する浜益地区など石狩市全体の観光情報等の提供やPRの実施。	・観光マップ、ホームページなど観光コンテンツの充実 ・道の駅における浜益地区PRイベントの実施

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5ー③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。（チェック欄）

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題（都市再生整備計画）を再確認した。
●	事業の実施過程の評価（添付様式3）を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用（添付様式4ー②）を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針（添付様式4ー③）を再確認した。
●	残された課題や新たな課題（添付様式5ー②）を再確認した。

添付様式5ー参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式5－④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2－①、2－②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2－①、2－②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指 標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画		
			年度	年度	年度	年度	確定	見込み			予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	地域の満足度	%	65	H26	72	H31	確定	●	82	○	あり		
							見込み				なし		
指標2	厚田地区の入込客数	人/年	145,000	H26	290,000	H31	確定		542,000	○	あり	●	
							見込み	●			なし		
指標3	自然交流エリアの入込客数	人/年	3,442	H26	4,200	H31	確定	●	8,453	○	あり		
							見込み				なし		
指標4				H		H	確定				あり		
							見込み				なし		
指標5				H		H	確定				あり		
							見込み				なし		
その他の数値指標1				H			確定						
							見込み						
その他の数値指標2				H			確定						
							見込み						
その他の数値指標3				H			確定						
							見込み						



添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	採用した指標は、市が毎年度調査、数値整理を行っているものであるため、評価値の計測・推計を容易に行うことができた。	毎年のデータが算出できる指標を選定すると評価が容易になるため、指標設定の際に計測・推計を考慮して検討することが望ましい。
	うまく いかなかった点	—	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	採用した指標が、事業内容との整合性が非常に高いので、事業効果を的確に確認することができた。	都市再生整備計画の作成時には、事業効果との整合性を考慮して、評価指標・計測方法を設定することが必要である。
	うまく いかなかった点	—	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	地域協議会への継続的な報告や住民説明会を通じて、事業に対する住民の主体的な取り組み姿勢が構築された。	住民参加は、住民の主体的取組を促進するために有効である。
	うまく いかなかった点	—	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	—	—
	うまく いかなかった点	—	
その他	うまくいった点	—	—
	うまく いかなかった点	—	

添付様式6ー参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

なし

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市ホームページに掲載	令和元年11月25日～12月26日	令和元年11月25日～12月26日	文書持参、郵送、FAX、Eメールによる受付	商工労働観光課（都市再生整備計画事業所管課）
広報掲載・回覧・個別配布	情報コーナー、商工労働観光課窓口での閲覧、市ホームページに掲載している旨を広報、掲示板に掲載	令和元年11月25日～12月26日	令和元年11月25日～12月26日		
説明会・ワークショップ	なし	-	-		
その他	商工労働観光課窓口での閲覧の実施	令和元年11月25日～12月26日	令和元年11月25日～12月26日		
住民の意見	なし				

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員					
その他の委員					

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	
	成果の評価	
	実施過程の評価	
	効果発現要因の整理	
	事後評価原案の公表の妥当性	
	その他	
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	
	フォローアップ	
	その他	
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	
その他		

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

(7) 有識者からの意見聴取

添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署
なし	-	-

有識者の意見	
--------	--

都市再生整備計画

あつたちく
厚田地区

(第2回 計画変更)

ほっかいどう いしかりし
北海道 石狩市

平成30年12月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	北海道	市町村名	インカシ 石狩市	地区名	アツタ チカ 厚田地区	面積	200 ha
計画期間	平成28年度～平成31年度	交付期間	平成28年度～平成31年度				

目標
【大目標】 厚田の魅力を高める交流拠点の形成による地域の活性化
〔目標1〕 地域の歴史、文化、自然、観光などの情報を発信し、地域の魅力を高める集客・交流拠点づくり
〔目標2〕 回遊性を高め、地域全体の経済活性化を図るまちづくり
〔目標3〕 地域の豊かな自然環境とふれあい、体験して楽しむまちづくり

目標設定の根拠
まちづくりの経緯及び現況
平成17年10月、厚田村、浜益村との合併により、新たな石狩市が誕生し行政面積は72,186haと旧石狩市の約6倍の面積となった。石狩市厚田区は札幌都心部から北におよそ40km(車で約1時間)に位置し、石狩湾に面する海岸は暑寒別天売焼尻国定公園に指定されるなど豊かな自然を有している。 通称「オロロンライン」と呼ばれ、本市を南北に縦断する国道231号は、厚田区から国道232号、40号を経由して北海道最北の稚内へ繋がっている。 「(仮称)道の駅あつたか・あいろーど」の建設を予定している厚田公園には、厚田資料室、スポーツ施設、「恋人の聖地」北海道第1号に認定された展望台などがあり、区民の憩いの場のみならず、多くの観光客が訪れている。また、隣接する厚田漁港で開催される朝市にも、旬な新鮮な魚介類を求め数多くの来客があるほか、厚田区望来(もうらい)にある戸田記念墓園は全道有数の桜の名所として知られ、年間約40万人が訪れるなど観光・交流人口のポテンシャルが高い地域である。 これらの地域資源を背景に、厚田区では、スポーツ・食をテーマに区民の健康増進・世代間交流に取り組む『厚田コミュニティ「ゆめ倶楽部」』、厚田区ゆかりの著名人を中心にPRし新たな地域づくり・歴史文化の伝承に取り組む『厚田資料室サポートの会』、厚田の「土地」「味覚」「らしさ」に拘り、漁・農・商・観等の連携に取り組む『厚田こだわり隊』など地域の住民が主体となって独自性豊かな様々な活動を展開しており、今後、地域が一丸となって、これらの活動の発展と内外への情報発信を目指している。
課題
厚田区においては、これまで独自性豊かな活動を展開してきたが、過疎化の進行がとまらず、少子高齢化も深刻で地域のコミュニティ機能や活力が衰退している。 そのため、地域の魅力、ポテンシャルを活かした交流人口の増大などによる地域の活性化や地域コミュニティの活力再生に向けた方策が求められている。 ・厚田の自然環境や風景、歴史、文化など地域の魅力を発信し、交流人口の増大による地域の活性化を図るため、新たな集客・交流拠点の形成が必要である。 ・地域の豊かな自然環境を活かした地域の魅力向上を図るため、既存施設の有効活用や再整備、自然体験型の新たな観光メニューの創出などが必要である。 ・地域コミュニティの活力を再生するため、集客・交流拠点の形成とあわせて、回遊性を高め、来訪者が地域内でゆったり滞在できる仕組みの構築が必要である。
将来ビジョン(中長期)
厚田公園内に「集客・交流」「にぎわい」「歴史・文化」の拠点となる複合施設「(仮称)道の駅あつたか・あいろーど」の整備を行い、観光情報や地域の魅力を発信し、交流人口の増大を図る。市民・事業者・行政が協働して観光・おもてなしの視点から拠点づくりに取り組むことにより、来訪客の増加を図り地元起業や雇用の場を創出するとともに、自然体験プログラムなどを通じた来訪客と地域住民との交流によって厚田ファン、リピーターの創出を図る。 また、地域も来訪客との交流からあらためて地域の魅力を感じとり、それが「地域への愛着や誇り」となり、それが、さらに地域素材を掘り起こし「地域の魅力を高める」という、好循環を生み出すことが期待される。 市民・事業者・行政が一体となって、施設の複合化・集約化、地域コミュニティの形成や地域商業機能の再生など、生活拠点の再生に向けて取り組むことによって、「何度も訪れたいような魅力ある観光地」、「住んでみたいまち」となることを目指す。

目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目 標 値	
					基準年度		目標年度
地域の満足度	人/年	集客系施設の利用に係る満足度調査	厚田公園内に「集客・交流」、「にぎわい」「歴史・文化」の拠点となる複合施設「(仮称)道の駅あつたか・あいろーど」の整備を行い、地域住民ならびに観光客の満足度を向上させ、交流人口を増加させる。 評価時点の事業効果分析調査による満足度＝H26の集客系施設のうち利用満足度の最高値を目標値とする。	65%	H26	72%	H31
厚田地区の入込客数	人/年	厚田地区の主要観光施設に訪れる年間入込客数(戸田記念墓地公園、ゴルフ場を除く)	「(仮称)道の駅あつたか・あいろーど」を拠点とし、効果的な情報発信と案内看板の整備などにより、市街地や区内観光施設への回遊性を高める。 評価時点の年間入込客数＝H25～H26の年間入込客数の平均値×2(道内主要道の駅の整備後の入込増加率)を目標値とする。	145,000人	H26	290,000人	H31
自然交流エリアの入込客数	人/年	自然交流エリアに訪れる年間入込客数	地域の自然環境を活用した「自然交流エリア」において、フットパスやサイクリング体験、ウォーキング事業など、魅力ある自然体験メニューを実施し、既存のキャンプ場の利用促進も含め交流人口を増加させる。評価時点の年間入込客数＝H24～H26のキャンプ場の利用実績の平均値×1.3(規模増加分に相当)を目標値とする。	3,442人	H26	4,200人	H31

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針		方針に合致する主要な事業
整備方針1 地域の歴史、文化、自然、観光などの情報を発信し、地域の魅力を高める集客・交流拠点づくり ・地域の「食」「自然」「歴史・文化」などの魅力を発信する地域活性化の拠点となる(仮称)道の駅あったか・あいろーどの整備を行う。 ・整備にあたっては、地域住民を中心に事業者・行政が一体となり、地域の魅力を掘り起こし、住民自らの手でその魅力をコーディネート、やりがいと楽しみをもって事業を推進することにより、地域コミュニティの活性化もあわせて図る。 ・また、これまでの住民独自の様々な活動を支援する機能も付加し、来訪者との交流を通じてさらなる魅力の向上を図る。		・高次都市施設/観光交流センター整備事業 ・地域創造支援事業/郷土資料展示室整備事業 ・まちづくり活動推進事業/観光交流センターイベント開催事業 ・事業活用調査/事業効果分析調査事業
整備方針2 回遊性を高め、地域全体の経済活性化を図るまちづくり ・集客・交流拠点となる(仮称)道の駅あったか・あいろーどにおいて周辺地域の魅力やモデル周遊コースなどの情報発信を行うとともに、周遊動線の強化を図るため、案内板や案内サインを設置し、朝市や厚田十字街、キャンプ場等回遊性を高めるための仕掛けづくりを行う。 ・また、(仮称)道の駅あったか・あいろーどと周辺の旧スキー場、キャンプ場、自然散策路等の既存施設を結ぶ、緑豊かな林道八幡沢線を自然体験交流の軸として再整備し、区域内の施設間の連携強化を図ることにより、回遊性を高める。		・地域生活基盤施設/案内板・案内サイン設置事業 ・地域創造支援事業/林道八幡沢線改良事業 ・事業活用調査/事業効果分析調査事業
整備方針3 地域の豊かな自然環境とふれあい、体験して楽しむまちづくり ・キャンプ場を核として、現在活用されていないパークゴルフ場や旧スキー場、駐車場を含めて自然交流エリアとして位置付け、豊かな自然環境を楽しむ体験できる場として充実・強化を図る。 ・サイクリング体験会、フットバスツアー、トレイルランニング講習会等の自然環境を活かした体験型観光プログラムの創出・提供を図る。		・地域創造支援事業/林道八幡沢線改良事業 ・事業活用調査/事業効果分析調査事業 ・関連事業/トレイルランニング体験 サイクリング体験 フットバスツアー ウオーキングイベント
その他 ◎石狩市のコンパクト化の方針と本計画の関係 石狩市都市マスタープランでは市域を「住宅ゾーン」「観光レクリエーションゾーン」「港湾ゾーン」「交流農業ゾーン」「自然環境ゾーン」の五つの大ゾーンに分け、各ゾーンの特徴や地域資源を活かした都市づくりを進めるとともに、交流の格となる重点地区や拠点の整備に取り組むことを掲げています。 このうち厚田地区は「観光・レクリエーションゾーン」「自然環境ゾーン」とされています。 また、公共施設を20%削減するとした公共施設等総合管理計画の適正管理に関する基本的な考え方において、新規の施設整備事業については単独施設の新規整備は行わず、施設の複合化・集約化、廃止・統廃合を基本とする方針を掲げており、本事業とは齟齬はありません。		

様式3 目標を達成するために必要な交付対象事業等に関する事項

交付対象事業費	1,191	交付限度額	476.4	国費率	0.4
---------	-------	-------	-------	-----	-----

(金額の単位は百万円)

事業 細項目		事業箇所名	事業主体	直／間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体 事業費	交付期間内 事業費	交付対象 事業費		費用便益比 B／C
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度			うち官負担分	うち民負担分	
道路														
道路														
道路														
道路														
公園														
古都保存・緑地保全等事業														
河川														
下水道														
駐車場有効利用システム														
地域生活基盤施設	情報版	案内板・案内サイン	石狩市	直	12基	H30	H31	H30	H31	27	27	27		27
高質空間形成施設														
高次都市施設	観光交流センター	(仮称)道の駅あったか・あいろーど	石狩市	直	1,156㎡	H28	H30	H28	H30	929	929	929		929
中心拠点誘導施設														
連携生活拠点誘導施設														
生活拠点誘導施設														
高齢者交流拠点誘導施設														
既存建造物活用事業(高次都市施設)														
土地区画整理事業														
市街地再開発事業														
住宅街区整備事業														
バリアフリー環境整備事業														
優良建築物等整備事業														
住宅市街地	拠点開発型													
総合整備	沿道等整備型													
事業	密集住宅市街地整備型													
	耐震改修促進型													
街なみ環境整備事業														
住宅地区改良事業等														
都心共同住宅供給事業														
公営住宅等整備														
都市再生住宅等整備														
防災街区整備事業														
合計										956	956	956	0	956

...A

提案事業(継続地区の場合のみ記載)														
事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体 事業費	交付期間内 事業費	交付対象 事業費		交付対象 事業費
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度			うち官負分担	うち民負分担	
地域創造 支援事業	林道八幡沢線改良事業	林道八幡沢線	石狩市	直	960m	H28	H30	H28	H30	28	28	28	0	28
	郷土資料展示室整備事業	(仮称)道の駅あったか・あいろうど	石狩市	直	177㎡	H28	H30	H28	H30	201	201	201	0	201
事業活用調査	事業効果分析調査事業	—	石狩市	直	—	H31	H31	H31	H31	3	3	3	0	3
	まちづくり活動推進事業	観光交流センターイベント開催事業	(仮称)道の駅あったか・あいろうど	石狩市	直	—	H30	H30	H30	H30	3	3	3	0
合計										235	235	235	0	235…B
												合計(A+B)		1,191

35...B

[illegible]